

## 第5期総合計画：重点施策推進管理評価調書【重点項目2】

	評価年度	平成27年度
重点項目	<b>2 環境への負荷が少ないまちづくり</b>	
	自然環境の保全や再生に努めるとともに、地球温暖化の防止に心がける意識づくりや取り組みを進めます。	

重点施策	分野	施策	施策の内容	27年度 評価	26年度 評価	担当課	計画書 掲載頁
	重点施策	環境保全	環境の保全に向けた啓発と取り組み	森林や河川などの自然環境の保全と再生に努めます。	4.33	4.33	環境生活課 農政課 都市計画課
循環型社会づくりの推進			地球温暖化対策の取り組みを進め、公共施設などから排出される温室効果ガスの削減に努めるとともに、町民の意識の高揚をはかります。 太陽光、バイオマスなどの新エネルギーの利用を進めます。	5	5	環境生活課 広報広聴課	
町民主体の環境保全、環境美化活動の促進			さまざまな情報を提供し、家庭で取り組めるエコ活動を促進します。	4.50	4.50	環境保全課	
重点施策	観光	交流人口の増加に向けた観光振興事業の推進	「モール温泉」を有効に活用するため、集中管理体制の強化や新エネルギーの導入、低炭素化社会への取り組みを進めます。	4	4	商工観光課	33
重点施策の推進状況評価の平均				4.46	4.46		



評価区分	A 順調に進んでいる (4.50~5.00) B 概ね順調に進んでいる (4.00~4.49) C 推進が必要 (3.00~3.99) D 更なる推進が必要 (0~2.99)	B
------	--	---

推進状況	重点項目2は、前年度と同様の推進状況となっている。街路灯の省電力化は25年度をもって終了した。公用車の導入の際のハイブリッド車の導入や庁舎の節電には継続して取り組んでいる。また、太陽光発電システムの町民への普及は、27年度末の累計で728件となっている。町民への環境行動への啓発や、町内会を通じた意識高揚を図るなど、地球温暖化対策の取組を着実に進めている。
------	--

評価結果	環境保全に関して、二酸化炭素は家庭からの排出が多いため、ゼロエネルギーハウスの推進や町内ハウスメーカーの技術向上として、町で独自の基準を設けて、基準を満たす家について補助を行う取組を検討してはどうか。
------	--

重点施策	2 環境への負荷が少ないまちづくり
------	-------------------

分野	環境保全
----	------

施策	環境の保全に向けた啓発と取り組み
----	------------------

●目標指標の推移

区分	目標指標名	説明	単位	当初数値(年度)	中間数値(年度)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	目標値(H32)
指標1	「自然環境の保全」の満足度	まちづくり町民アンケート(「満足、やや満足、普通」と回答した割合)	パーセント	84.4(H20)	85.3(H26)	88.2						87.0

●事務事業の実績

・事務事業1		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	環境行動への啓発活動及び環境行事の実施	成果数値	件	2	2					【26年度実施事業】 環境学習会の実施 1回、パネル展 1回(本庁舎、木野支所の2箇所) 【27年度実施事業】 環境学習会の実施 1回、パネル展 1回(本庁舎、木野支所の2箇所)	環境生活課
事業概要	おとふけ環境週間の実施等	事業費実績	千円	175	231						
成果名	実施事業数	評価	貢献度	2	2						

・事務事業2		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	河川敷地占用許可にかかる意見聴集対応事務	成果数値	件	54	27					【主な意見の内容】 電柱の設置、橋の修繕工事 かんがい用水管路工事 等	都市計画課
事業概要	河川区域内の土地を工作物の改修等で占有しようとする者から意見を徴集する事務	事業費実績	千円	—	—						
成果名	意見徴収件数	評価	貢献度	2	2						

・事務事業3		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	町有林及び私有林の健全育成と管理の推進	成果数値	ヘクタール	146.3	137.3					【26年度実施事業】 新植事業 14.6ha、私有林除間伐事業 83.8ha、町有林除間伐事業 47.9ha 【27年度実施事業】 新植事業 21.9ha、私有林除間伐事業 52.6ha、町有林除間伐事業 62.8ha	農政課
事業概要	環境保全等を目的として、町有林及び私有林を育成・管理する。	事業費実績	千円	38,897	47,181						
成果名	新植事業、私有林除間伐事業及び町有林除間伐事業の合計面積	評価	貢献度	3	3						

評価基準 貢献度 3: 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2: 貢献している(施策を推進する事務事業) 1: 貢献していない  
達成度 3: 順調に進んでいる(80~100%) 2: 一定程度進んでいる(50%~79%) 1: 遅れがある、未着手(50%未満)

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
26年度(中間)	5	第5期総合計画策定時から重点に位置づけてある施策であり、5評価とする。	4.33	・町民への啓発活動をはじめ、河川の水質調査、公共工事等の自然環境への影響を検討する委員会の設置など対応しており、4評価とした。(環境生活課) ・町内の1級河川で河川敷地を占用する際は、周辺地域との関係や景観及び自然環境との調整のため、河川管理者から町に対して意見聴取があり、環境保全等の推進を図っており、4評価とした。(都市計画課) ・概ね計画どおり進んでいることから、5評価とした。(農政課)
27年度	5	同上	4.33	・前年度と同様の状況であるため、4評価とした。(環境生活課) ・前年度と同様の状況であるため、4評価とした。(都市計画課) ・前年度と同様の状況であるため、5評価とした。(農政課)
28年度				
29年度				
30年度				
31年度				
32年度				
評価基準	5: 重点及び早急に推進することが必要な施策 4: 更なる推進が必要な施策 3: 現状で推進する施策 2: 現状においては推進に時間を要する施策 1: 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5: 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4: 一定程度進んでいる(50~79%) (標準) 3: あまり進んでいない、遅れがある(20~49%) 2: 着手した程度(20%未満) 1: 未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	指標の「自然環境の保全」に係る町民アンケート(「満足、やや満足、普通」と回答した割合)は増加傾向にあり、27年度は88.2パーセントで、最終年度目標値の87.0パーセントを上回った。
施策の課題	施策に課題等はなく、現施策により推進する。
総合評価(施策の方向性)	森林の保全をはじめ、河川の水質検査や河川管理者への意見、公共事業の検討、町民への啓発等を通じて環境保全に努めている。現施策を推進しながら、町民への更なる意識向上を図る取組を検討する必要がある。

■第5期総合計画:推進管理評価調書【施策(個表)】

重点施策	2 環境への負荷が少ないまちづくり
------	-------------------

分野	環境保全
----	------

施策	循環型社会づくりの推進
----	-------------

●目標指標の推移

区分	目標指標名	説明	単位	当初数値(年度)	中間数値(年度)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	目標値(H32)
指標1	温室効果ガスの排出量	町の事務事業に伴う温室効果ガスの排出量(年間、二酸化炭素換算排出量)	トン	9,449(H20)	8,793(H26)	10,269						8,442

●事務事業の実績

・事務事業1			単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	住宅用太陽光発電システム普及促進事業	成果数値	件	112	74						補助率 1/3(上限額 150,000円)	環境生活課
事業概要	住宅用太陽光発電システム設置補助	事業費実績	千円	16,800	11,100							
成果名	補助件数	評価		貢献度 3	3							
				達成度	3	3						

・事務事業2			単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	地球温暖化対策実行計画の推進	成果数値	日	14	14						【26年度】 ノーマイカーデー、クールアースデー等 【27年度】 ノーマイカーデー、クールアースデー等	環境生活課
事業概要	温暖効果ガス制限による地球温暖化対策	事業費実績	千円	—	—							
成果名	「おとふけ環境週間」取組日数	評価		貢献度 3	3							
				達成度	3	3						

・事務事業2			単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	潤いと思いやりの地域づくり事業(街路灯・防犯灯の省エネ化)>	成果数値	件	27	31							広報広聴課
事業概要	町内会が管理する街路灯・防犯灯のLED灯への取替に対する補助	事業費実績	千円	5,854	3,298							
成果名	補助件数	評価		貢献度 3	3							
				達成度	3	3						

評価基準  
 貢献度 3: 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2: 貢献している(施策を推進する事務事業) 1: 貢献していない  
 達成度 3: 順調に進んでいる(80~100%) 2: 一定程度進んでいる(50%~79%) 1: 遅れがある、未着手(50%未満)

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
26年度(中間)	5	第5期総合計画策定時から重点に位置づけてある施策であり、5評価とする。	5	・公共施設への省エネ化は計画的に進められており、公用車の導入の際のハイブリッド化や節電に継続して取り組んでいる。太陽光発電補助をはじめ、温暖化対策実行計画による環境行動への取組、民間へのメガソーラーの導入も行われていることから、5評価とした。(環境生活課) ・潤いと思いやりの地域づくり事業を通じて、町内会が管理する防犯灯等のLED化を推進することにより、温暖化対策と意識高揚が図られていることから、5評価とした。(広報広聴課)
27年度	5	同上	5	・前年度と同様の状況であることから、5評価とした。(環境生活課) ・前年度と同様の状況であることから、5評価とした。(広報広聴課)
28年度				
29年度				
30年度				
31年度				
32年度				
評価基準	5: 重点及び早急に推進することが必要な施策 4: 更なる推進が必要な施策 3: 現状で推進する施策 2: 現状においては推進に時間を要する施策 1: 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5: 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4: 一定程度進んでいる(50~79%) (標準) 3: あまり進んでいない、遅れがある(20~49%) 2: 着手した程度(20%未満) 1: 未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	指標の温室効果ガスの排出量は、増減を繰り返している状況にあるが、算定に用いる排出係数が、泊原子力発電所の運転停止によって基準年より増加していることが背景になっている。
施策の課題	施策に課題等はなく、現施策により推進する。
総合評価(施策の方向性)	公共施設の省エネ化は計画的に実施しており、街路灯の省電力化は25年度をもって終了した。公用車の導入の際のハイブリッド車の導入や庁舎の節電には継続して取り組んでいる。町民への環境行動への啓発や、町内会を通じた意識高揚、民間主体のメガソーラー発電も進められており、現施策を推進していく必要がある。

重点施策	2 環境への負荷が少ないまちづくり
------	-------------------

分野	環境保全
----	------

施策	町民主体の環境保全、環境美化活動の促進
----	---------------------

●目標指標の推移

区分	目標指標名	説明	単位	当初数値(年度)	中間数値(年度)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	目標値(H32)
指標1	おとふけ環境週間における取組事業数	おとふけ環境週間における取組事業数	件	13(H22)	14(H26)	14						16
指標2	「潤いと思いやりのちいきづくり事業」の申請件数(年間)	潤いと思いやりの地域づくり事業(地域福祉・安全事業)における街路灯・防犯灯の省エネ化の申請件数	件	5(H22)	27(H26)	31						10

●事務事業の実績

・事務事業1		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	地球温暖化対策実行計画の推進	成果数値	日	14	14					【26年度】 ノーマイカーデー、クールアースデー等 【27年度】 ノーマイカーデー、クールアースデー等	環境生活課
事業概要	温暖効果ガス制限による地球温暖化対策	事業費実績	千円	—	—						
成果名	「おとふけ環境週間」取組日数	評価	貢献度	3	3						
			達成度	3	3						

・事務事業2		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	潤いと思いやりの地域づくり事業(街路灯・防犯灯の省エネ化)＞	成果数値	件	27	31						広報広聴課
事業概要	町内会が管理する街路灯・防犯灯のLED灯への取替に対する補助	事業費実績	千円	5,854	3,298						
成果名	補助件数	評価	貢献度	3	3						
			達成度	3	3						

評価基準 貢献度 3: 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2: 貢献している(施策を推進する事務事業) 1: 貢献していない  
 達成度 3: 順調に進んでいる(80~100%) 2: 一定程度進んでいる(50%~79%) 1: 遅れがある、未着手(50%未満)

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
26年度(中間)	5	第5期総合計画策定時から重点に位置づけてある施策であり、5評価とする。	4.50	・環境行動への取組や啓発活動は、環境週間を中心に実施している状況にあり、4評価とした。(環境生活課) ・潤いと思いやりの地域づくり事業を通じて、町内会が管理する防犯灯等のLED化を推進することにより、温暖化対策と意識高揚が図られていることから、5評価とした。(広報広聴課)
27年度	5	同上	4.50	・前年度と同様の状況であることから、4評価とした。(環境生活課) ・前年度と同様の状況であることから、5評価とした。(広報広聴課)
28年度				
29年度				
30年度				
31年度				
32年度				
評価基準	5: 重点及び早急に推進することが必要な施策 4: 更なる推進が必要な施策 3: 現状で推進する施策 2: 現状においては推進に時間を要する施策 1: 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5: 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4: 一定程度進んでいる(50~79%) (標準) 3: あまり進んでいない、遅れがある(20~49%) 2: 着手した程度(20%未満) 1: 未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	音更環境週間の実施事業は、継続して14事業を取り組んでおり、町内会への潤いと思いやり事業による支援は、一定の推進を継続している。
施策の課題	施策に課題等はなく、現施策により推進する。
総合評価(施策の方向性)	町民への環境行動への啓発や、町内会を通じた意識高揚などにより施策の推進が図られている。町民への啓発を更に強化し、現施策を推進していく必要がある。



■第5期総合計画:推進管理評価調書【施策(個表)】

重点施策	2 環境への負荷が少ないまちづくり
------	-------------------

分野	観光
----	----

施策	交流人口の増加に向けた観光振興事業の推進
----	----------------------

●目標指標の推移

区分	目標指標名	説明	単位	当初数値(年度)	中間数値(年度)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	目標値(H32)
指標1	観光入込客数	全国観光統計基準および北海道観光入込客数調査要領に基づき報告する実人数(年間)	人	1,329,800(H21)	1,402,500(H26)	1,403,900						1,461,000
指標2	宿泊客延数	全国観光統計基準および北海道観光入込客数調査要領に基づき報告する宿泊客延数(年間、含外国人)	泊	503,100(H21)	440,800(H26)	433,000						710,000

●事務事業の実績

・事務事業1		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	温泉集中管理事業に係る補助	成果数値	トン	300,000	262,000					【集中管理利用施設】 第一ホテル、観月苑、ホテル大平原、笹井ホテル、あさひ苑	商工観光課
事業概要	源泉井戸調査、集中管理配管漏水調査、源泉井戸掘削等への支援	事業費実績	千円	9,666	—						
成果名	十勝川温泉年間供給量	評価		貢献度 2	2						
				達成度 3	3						

・事務事業2		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	道東自動車道活用による利便性向上等対策	成果数値	人	300,000	262,000					26年度からバス運賃の引き上げに伴い運行期間を短縮	商工観光課
事業概要	札幌・旭川・新千歳空港から十勝川温泉間の宿泊滞在型バスの運行支援	事業費実績	千円	1,788	1,309						
成果名	モール温泉号による延べ宿泊数	評価		貢献度 3	3						
				達成度 2	2						

・事務事業3		単位	26年度実績(中間)	27年度実績	28年度実績	29年度実績	30年度実績	31年度実績	32年度実績	特記事項	担当課
事務事業名	イベントの開催補助	成果数値	人	44,436	50,275					【他イベントの入込み客数】 オータムフェスタ 26年度 577人 27年度 660人	商工観光課
事業概要	観光協会を主体とした観光振興イベントに対する補助	事業費実績	千円	6,900	6,900						
成果名	白鳥まつり「彩凜華」入込客数	評価		貢献度 3	3						
				達成度 3	3						

評価基準 貢献度 3: 大きく貢献している(施策の内容に直結する事務事業) 2: 貢献している(施策を推進する事務事業) 1: 貢献していない  
達成度 3: 順調に進んでいる(80~100%) 2: 一定程度進んでいる(50%~79%) 1: 遅れがある、未着手(50%未満)

●施策の点検・評価

	必要性		推進状況	
	評価	評価理由	評価	評価理由
26年度(中間)	5	第5期総合計画策定時から重点に位置づけてある施策であり、5評価とする。	4	宿泊施設の減少により、宿泊客延数は減少傾向にある。音更町十勝川温泉観光協会、十勝川温泉旅館協同組合など関係団体と連携し、2次交通の充実や十勝川温泉街の賑わい創出、滞在型観光の更なる推進等により、宿泊客延数の増加に取り組む必要があり、4評価とした。
27年度	5	同上	4	前年度と同様の状況であり、4評価とした。
28年度				
29年度				
30年度				
31年度				
32年度				
評価基準	5: 重点及び早急に推進することが必要な施策 4: 更なる推進が必要な施策 3: 現状で推進する施策 2: 現状においては推進に時間を要する施策 1: 制度等の廃止や施策の達成により、推進の必要がない施策		5: 成果の推移等から順調に進んでいる(80~100%) 4: 一定程度進んでいる(50~79%) (標準) 3: あまり進んでいない、遅れがある(20~49%) 2: 着手した程度(20%未満) 1: 未着手(0%)	

施策評価	
指標の推移	観光入込客数は増加傾向にあるものの、経済波及効果の高い宿泊客延数は、宿泊施設の相次ぐ閉鎖により、減少傾向が続いている。
施策の課題	旅行形態が団体型から個人型へ変化している中、貴重なモール温泉、食、アウトドア体験を中心とした観光資源の更なる魅力向上と、十勝川温泉中心市街地の再生による賑わい創出に取組み、「選ばれる観光地」「滞在してもらえる観光地」への飛躍を図る必要がある。また、外国人宿泊客は、27年度に過去最高を記録するなど、東京オリンピック・パラリンピックに向けて全国的な増加傾向は続く想定されることから、訪日外国人観光客誘客強化に積極的に取り組む必要がある。また、温泉資源の保護についても、継続して取り組む必要がある。
総合評価(施策の方向性)	交流人口の拡大を進めるためには、音更町十勝川温泉観光協会、十勝川温泉旅館協同組合など関係団体と連携し、2次交通対策、訪日外国人観光客誘客強化、十勝川温泉中心市街地再生などの観光振興施策を引き続き推進することが必要である。また、近隣自治体との連携による観光振興、温泉資源の保護にも継続して取り組む必要がある。